

9月定例会

一般質問



9月定例会では14人の議員が市政に対する一般質問を行いました。

一般質問とは、議員が高山市政全般にわたり、事務執行の状況及び将来に対する方針などについて所信を質すとともに、報告、説明を求め疑問を質すものです。

■QRコードから各議員の一般質問をご覧ください。配信は会議録が調製され次第終了します。(タブレット・スマートフォンにも対応。通信料は別途発生します。)

また、新型コロナウイルス感染防止対策として、6月定例会からの対策に加え、9月定例会から、飛沫防止対策として議長席、登壇席、一般質問席にアクリル板を設置し、マスクを外して発言できるようになりました。



災害時の事前防災行動計画は活かされたのか

高山市議会公明党
山腰 恵一



問 7月豪雨では、風水害タイムライン(事前防災行動計画)の運用により関係機関との連携はどう図られ活かされたのか。また、課題は。

答 今回の災害では、気象庁や県から土砂災害警戒情報などの発表見込みを事前に連絡してもらうことで、避難情報発令の準備や何処の避難所を開設するのかの検討を行い各町内会長への避難所開設の連絡などを早い段階で行えた。ただし、限られた地域での集中豪雨や線状降水帯は現在の技術では予測できないためタイムラインに頼るだけでなく現場の状況を正確に把握し柔軟に対応することが必要。



コロナ禍における医療機関・従事者への支援

高山市議会公明党
中 箴 博之



問 コロナの影響で外来・入院患者の減少、感染予防対策のための諸経費や人件費の増など医療機関の収支が悪化している中で、市民病院を持たない高山市は、これまで以上に医療機関や従事者への支援に取り組むべきでは。

答 市ではこれまでも市民のための医療確保のため、医療人材確保や施設整備のための補助金を交付してきている。コロナ関連の収入減については、国・県の動きを踏まえつつ、市内医療機関への影響について注視し、市民に安心していただける医療体制の安定的維持のために必要な支援策について検討する。

